

平成二十七年年度

金子兜太のふるさと投句 第二回特選・入選作品

選者 中村琴江

特選

結願の笠脱ぐ妻に銀杏散る

さいたま市

増田 信雄

講評

秩父札所観音霊場の三十四ヶ寺をご夫婦で巡拝されたのです。お二人で巡礼者となり長い札所の径を時間をかけ観音様と結縁を深めていただきながら三十四番水潜寺に着き無事結願、満願成就を果たされ安堵なされたお二人です。菅笠を脱がれた奥様にはらはらと銀杏もみじが散りその黄色のまぶしさに作者は万感胸に迫り来て晩秋のここ結願寺でなければ詠めない句を成したのです。心をほのぼのと満たしてくださるすくれた作品です。

全身を秩父の色にいぼむしり

川口市

早乙女 文子

講評

秩父の色ってどんないろだろうと考えましたが作者はここ秩父でいぼむしりを発見した時点で秩父の色と直感なされたのでしよう。素朴な風土の中の生き物にも色分けがあると納得し愉快になりました。この句は蠅螂でもかまきりでもなくやはりいぼむしりの文字が使われたことにより秩父らしく何となく親しみのもてる不思議さに惹かれ、とても佳い作品です。

曼珠沙華炎の中の野の仏

群馬県

川端 一美

講評

曼珠沙華は彼岸花の名で知られております。真紅で茎をつんと伸ばし群がり咲くさまは美しいものです。作者は野に彩り咲く曼珠沙華に寄りその中の石仏様が目に入ったのでこんな処にと立ち止り合掌なされたのではないのでしょうか。秩父盆地には多くの石仏様が祀られてあります見逃してしまいそうな景を詠まれたすばらしい作品です。

入選

大人の部

沢胡桃兜太先生歩の確か
風かをり秩父の神にありがとう
床の間に納めて久し遍路笠
水引草銅を産みたる古き山
訪ね来し兜太の句碑の草を曳く
山道に入りて落ち栗夫を追ひ
三世代紅葉を浴びつ結願す
古道ゆく獣の畏の注意書
結願やうれしき歩み寒の内
札立の峠ころげる秋遍路
みの山の天辺までの草もみじ
雪風を押しつけてきて結願堂
満願の兜太の句碑に西日あり
曼珠沙華やマブコロッケほっこりと
永別の山河の雪の白さかな

小人の部

目として季節感じる虫の音に
しもばしちサクサクとたのしいな
りよこうでねきいろいはつばを見つけたよ
みの山のつつじはきれいにさくんだよ
美の山のきりにつつまれみどりいろ

投句方法

役場・皆野駅など町内11か所に設置されている投句箱に、専用の投句用紙が用意してありますので必要事項をご記入ください。

次回選句会

平成28年第一回9月(5月)8月投句分)当季雑詠

問合せ

皆野町商工会 ☎62・1311

| | | |
|------|-------------|-----|
| 秩父市 | 都沢 | 美江子 |
| 沖繩県 | 市川 | 三郎 |
| 福岡県 | 松尾 | 伸男 |
| 東京都 | 脇屋 | 善之 |
| 秩父市 | 吉田 | 和江 |
| 東京都 | 宮 | 薫 |
| 長瀬町 | 大前 | 英俊 |
| 熊谷市 | 鈴木 | 陽子 |
| 東京都 | 渡邊 | 唯夫 |
| 熊谷市 | 鈴木 | 信行 |
| 秩父市 | 町田 | ヨウ子 |
| 秩父市 | 加藤 | 康之助 |
| 皆野町 | 新井 | 進 |
| 秩父市 | 設楽 | キマ |
| 小鹿野町 | 原島 | 勝子 |
| 秩父市 | 林 祥太郎(十歳) | |
| 茨城県 | 飯田 美那(十歳) | |
| 東京都 | 水谷 としはる(七歳) | |
| 皆野町 | さわぐち うた(六歳) | |
| 深谷市 | さいとう りん(六歳) | |